

令和3年度 丹波の森大学講師紹介

(敬称略)

日時	講師・講義内容
<p>5月29日(土) 10時30分~12時</p> <p>丹波の森公苑 多目的ルーム</p>	<p>角野 幸博 「新縄文人がくらす丹波の森」</p> <p>歴史学者の網野善彦によると、「百姓」とは山で鳥獣を狩り、海で魚介を捕り、木を伐って家や舟を作り、その舟で交易し、その合間に米や野菜を作り、さらに土器などを焼き、鍋や釜、槍や刀までも鋳て、そのうえで書や絵を愛する自由人だったそうです。そういう生き方は縄文時代からすでに始まっていました。今、日本各地には、「新縄文人」とでも呼べるような人たちが地域づくりの主役になっています。IターンやJターンの実態に学びながら、新縄文人たちの地域づくりを考えます。</p>
<p>6月19日(土) 10時~11時30分</p> <p>丹波篠山市民センター</p>	<p>水野 章二 「人と災害—水・旱・風・虫害の歴史」</p> <p>大地震や激しい水害などが多発しており、災害への関心が高まっています。災害の持つ意味は時代によって大きく異なりますが、技術力の乏しい近代以前の社会では、災害は日常的に発生しており、人々は常に災害と闘わねばなりません。その時代に大量死を招いたのは、飢饉の原因となる旱・水・風・虫害などの農業災害で、食料生産に致命的な被害を与えていたのです。当時の人々がどのように災害を理解し、立ち向かったのかをお話します。</p>
<p>公開講座</p> <p>7月17日(土) 10時~11時30分</p> <p>丹波の森公苑 多目的ルーム</p>	<p>岩槻 邦男 「森との対話」</p> <p>植物は日本語を話しませんが、真剣に対面するといろいろな情報を伝えてくれます。4半世紀前に「植物からの警告」という書を上梓しました。ドリトル先生が動物と会話したように、植物の声を聞き取って人々に伝達する役割を担おうとしたものでした。森からの声を聞く今年度のカリキュラムのうちで、私が聞いてきた森の声を伝達できればと思います。世界各地の森で聞き取った、それぞれの地域の森の声を紹介できるのも楽しみです。</p>
<p>8月21日(土) 10時~11時30分</p> <p>丹波篠山市民センター</p>	<p>石田 弘明 「丹波地域の森林の特徴と保全」</p> <p>丹波地域には様々なタイプの森林(照葉樹林、夏緑樹林、針葉樹林、湿地林、河畔林、里山林など)が分布しています。これらの森林の成立には、どのような要因が関係しているのでしょうか。また、丹波地域の森林とその生物多様性の保全に向けて、私たちは何をする必要がありますのでしょうか。生態学・植生学からみた丹波地域の森林の現状や特徴、魅力、課題などを紹介し、その保全のあり方について考えます。</p>
<p>9月18日(土) 10時~11時30分</p> <p>丹波の森公苑 セミナー室</p>	<p>清水 夏樹 「森づくりに関わる「ひと」の声を聴く」</p> <p>森を将来にわたって受け継いでいくためには、里山の手入れのように、「ひと」と自然との関わりが欠かせません。「ひと」に森づくりに関わり続けてもらうための仕掛けの第一歩として、森づくりにかかわる人びとの想いを共有し、次の活動につなげていくため、「ひと」の声をどう聴くか?を探ります。具体的には、アンケート調査や統計データを読み解き、地域づくりに役立てる方法について、事例をもとに解説します。</p>

日時	講師・講義内容
<p data-bbox="140 309 268 342">公開講座</p> <p data-bbox="113 376 284 412">11月6日(土)</p> <p data-bbox="100 423 300 454">10時~11時30分</p> <p data-bbox="108 477 292 539">丹波の森公苑 多目的ルーム</p>	<p data-bbox="400 331 1042 371">平田 オリザ 「わかりあえないことから」</p> <p data-bbox="424 396 1458 515">コロナの影響で、ますます社会は分断が進み、人々の孤立化が進んでいます。本講演では、コミュニケーションの視点とまちづくりの視点の双方から、地域で分断を乗り越える方策を探っていきたいと考えています。</p>
<p data-bbox="108 808 292 846">11月20日(土)</p> <p data-bbox="156 889 244 922">滋賀県</p>	<p data-bbox="400 607 1002 649">現地学習 滋賀県立琵琶湖博物館他</p> <p data-bbox="400 694 756 730">■滋賀県立琵琶湖博物館</p> <p data-bbox="429 748 1439 952">琵琶湖には、2000種以上の生き物が暮らしていて、そこにしかない生き物(固有種)もたくさんいます。琵琶湖博物館は、湖の生い立ち、人々の歴史、自然と私たちの暮らしの展示をはじめ、湖の生き物の生きた姿を見ることできます。また、見るだけでなく、さわったり、においをかいでみたりして、琵琶湖の自然や生き物、暮らしについて、五感で体験し多彩な展示が楽しめます。</p> <p data-bbox="429 985 1439 1104">人間は古くから琵琶湖のまわりで生活し、その豊かな自然を利用した伝統的な暮らしを続けてきました。歴史を感じながら水と自然にふれあい、山河の声を聴く機会とします。</p>
<p data-bbox="113 1238 300 1274">12月18日(土)</p> <p data-bbox="100 1285 300 1317">10時~11時30分</p> <p data-bbox="121 1339 304 1402">丹波の森公苑 セミナー室</p>	<p data-bbox="400 1164 1414 1205">松本 邦彦 「小さな流域の単位で捉える地域の歴史文化とその保全」</p> <p data-bbox="424 1225 1458 1473">地域の活性化や自然環境・景観等の保全を進める際には、地域固有の特徴や資源の存在がそのよりどころになる場合が多くあります。一方で、自分たちが暮らす「ふつうの町」には、そのような資源が見当たらないという声も多くあります。そこで、地域の環境、特に目に見える環境としての景観を「小さな流域」の単位で捉え直すことで、その特徴を活かした将来のまちづくりや保全の進め方について考えてみます。</p>
<p data-bbox="150 1615 248 1644">令和4年</p> <p data-bbox="113 1646 292 1684">1月22日(土)</p> <p data-bbox="100 1695 300 1727">10時~11時30分</p> <p data-bbox="108 1749 292 1812">丹波の森公苑 多目的ルーム</p>	<p data-bbox="400 1529 1315 1570">黒田 慶子 「里山林の健全性と持続性確保のための活用とは」</p> <p data-bbox="424 1590 1458 1879">里山の薪炭林は20年前後の周期で伐採され、燃料や肥料を供給しつつ、切株からの萌芽により再生させてきました。しかし1950年代からの燃料革命で放置されて大木が増加し、ナラ枯れ拡大や荒廃などの問題が発生しています。近年は里山の整備活動が活発ですが、環境を守りたい気持ちはあっても、基本的な知識がなければ良い結果になりません。また、里山林が天然林に分類されているため、伐採への誤解もあります。里山林を健康に持続させるには目標と手法の検討が大事であることを説明します。</p>